

2時間目の講義（倫理）：『危険の予測と回避』①

『とかち遊漁塾』塾長の『釣沢 遊吉（つりざわ ゆうきち）』である！

これより2時間目の「倫理」の講義を始める！

先程の講義で反省した良太が「ワカサギの穴釣り」の用意をしておいたので、穴釣りの注意喚起を兼ねて本日の講義は『危険の予測と回避』とする。

「氷上の穴釣り」は、北海道の厳冬期を代表する遊漁であり、湖沼ではワカサギ、河口部などの汽水域（海水と淡水が混じり合った水域）ではチカやキュウリウオなどの釣りが盛んに行われておる。

「穴釣り」は、穴開け作業と氷上で寒いことさえ我慢すれば、比較的簡単な釣り道具で数釣りもできるので、家族みんなで楽しめる素晴らしい釣りじゃな。

じゃが、春が近づく3月頃になると薄くなった氷が割れて遊漁者が水中に転落する事故が発生しておるので、特に小さな子供を連れた遊漁者は注意が必要じゃ！

また氷の厚さも、気温や水位などに大きく影響を受けることから、毎回釣り場が同じでも過信せずに、事前に情報などを仕入れて十分気を付けて楽しんでもらいたい。



【写真手前の川の中心部の氷が薄くなって危険な状態】

- 1時間目の講義（法規）
 - 2時間目の講義（倫理）
 - 3時間目の講義（道徳）
 - 下校時間
- ◆WANTED ◆ルール&マナー ◆水産課ホームページ

2時間目の講義（倫理）：『危険の予測と回避』②



【氷上への車の乗り入れは危険】



【氷上では氷の厚さに注意】

じゃが！最近では寒いからと言って、釣り場までの氷上をRV車・スノーモービル・バギーなどの車両で移動する輩や、氷上に車を置いて防寒テント代わりにする輩などの話を耳にすることがあるが、ただでさえ危険な氷上に重い車両を乗り入れるとは何事じゃ！

特に河口付近での氷上への車両の乗り入れは、潮の満ち引きにより水面が上下するために氷下に空洞ができ、周辺一帯が陥没する大規模な事故にもつながりかねないことぐらいは判りそうなものじゃ！

あまつさえ、このように元々危険な河口付近で夜釣りをする輩の噂を聞くにいたっては言葉を失ってしまう・・・このほかにも、除雪していない通行止めの山道や農道を通して釣り場までの移動中に車両が雪に埋まって動けなくなり、幸いにも携帯電話が通じたために警察や近くの農家に救助され、危うく難を逃れた遊漁者もおるようじゃの。

穴釣りに限らず何れの遊漁でも同じであるが、遊漁自体が自然を相手にしている以上、常に身の回りで起きうる可能性がある『危険の予測と回避』に対する努力や構えは絶対に必要じゃ。

遊漁を行うに当たっては、釣り場の釣獲状況は最も重要な情報の一つではあるが、釣り場の形状、前後日の天気状況、悪天候時の対処、同伴者の構成、日程などの多くの情報を予め総合的に検討し、「**如何に危険を事前に予測し回避するか！**」が一番大切である。

そしてもう一つ！決して忘れてはならないのが「**危険や不安を感じる時は釣りをやめる勇気**」じゃな！

今の世の中、いつの頃からか「自己責任」が常識になっておるようじゃが、ひとたび事故が発生すれば警察・海上保安部のほかに、漁業者や地域の住民が仕事を休んでボランティアで救助や捜索などに参加することを考えれば、現実的には関係者の皆さんに多大なる迷惑を掛ける訳じゃから、全て自己責任で解決するなんてことには絶対にならんのじゃ！だからこそ遊漁者は、日頃より危険に対する「予測と回避」に努め、少しでも不幸な事故を減らすことに努力し、たとえ「ボウズ」（魚が釣れずに手ぶらで帰ってくる）でも良いから、無事に「ただいま」と家に帰ってくることが「遊漁者としての努め」の一つではないかと我が輩は考えておる。塾生の諸君らも肝に銘じて努力して欲しい！

以上で『危険の予測と回避』の講義を終了とする。

● 1時間目の講義（法規） ● 2時間目の講義（倫理） ● 3時間目の講義（道徳） ● 下校時間

◆ WANTED ◆ ルール&マナー ◆ 水産課ホームページ